



当院の脳神経内科について

臨床研究部長 川村 和之

国立病院機構南京都病院脳神経内科は、筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症、パーキンソン病などの神経変性疾患を主とした神経難病に対して、病初期から進行期まで一貫した質の高い医療を提供することを使命と考えています。病初期には正確な診断・治療と丁寧な説明を心がけることは言うまでもありませんが、診断・治療に苦慮する場合には京都大学医学部附属病院や国立病院機構京都医療センターの脳神経内科と連携をとっています。進行期には、患者さんのQOL（生活の質）を守るために多職種が関わるチーム医療の提供を心がけています。近年は、進行期でも在宅で療養する患者さんが増加しています。それに対応するために、訪問診療、訪問看護を担って下さる地域の先生、ケアマネージャー、訪問看護ステーションスタッフとの連携に努め、レスパイト入院を積極的に受け入れています。

当院脳神経内科は平成30年10月に常勤医6名体制となりました。6名全員が日本神経学会専門医の資格を有しており、数、質ともに宇治以南の医療の中核を担う総合病院に匹敵しています。医師一人一人が専門分野を持っていますので、その力を最大限発揮できるように平成31年4月に「もの忘れ・認知症」「パーキンソン病」「てんかん」「手足のしびれ」の4つの専門外来を新たに開設しました。昨年一年を通して、少しずつではありますがこれらの専門外来を受診する患者さんが増加しています。

高齢化社会の進展とともに、認知症患者さんの増加が非常に大きな社会問題として捉えられるようになりました。しかし、アルツハイマー病だけでなくパーキンソン病をはじめとする他の神経変性疾患、てんかんなどの患者数も急激に増加しています。今や神経疾患は決して稀な病気ではなく、生涯のうちに誰もが罹患する可能性のある病気であると言っても過言ではありません。例えば「歩きづらい」「よく転ぶ」「しゃべりにくい」というような年齢のせいかもしれないがちな症状の中に神経疾患が隠れていることがあります。先生方からご相談して頂ける、また患者さんが気軽に受診できる、地域に開かれた脳神経内科を目指して日々の診療に力を注いでいきたいと思っております。これからもよろしくお願い致します。

小児科医師紹介



小児科 大部 聡

皆様、初めまして。令和2年4月1日から南京都病院小児科に赴任しました大部（おおぶ）と申します。平成19年に大学を卒業し初期臨床研修を開始してから、北海道から九州まで全国の様々な地域の医療機関でお世話になり、一般小児や小児血液腫瘍を専門に診療を行ってきました。当院では、小児科全般の診療、重症心身障がい児（者）の方の医療ケア、乳幼児健診や予防接種といった小児保健診療など幅広く携わる予定です。新型コロナウイルス感染症の流行により不安を感じる現在ですが、患者さんやそのご家族の方に安心して診療を受けていただけるよう、日々学びながら診療にあたっていけたらと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



小児科 佐々木 彩恵子

はじめまして。令和2年4月より小児科に入職しました佐々木彩恵子と申します。

昨年までの5年間は滋賀県にある滋賀県立小児保健医療センターにおいて、小児神経の研修をしておりました。在宅で暮らす難治慢性疾患のお子さんの定期的な診察や体調不良時の緊急入院、レスパイト入院の他、呼吸器などの医療的ケアに依存したお子さんを在宅に退院を目指して医療的ケアを調整したり一緒に自宅へと赴いたり、といったことをしていました。

療育を受けているお子さんたちと一緒に鉄道博物館や京都水族館へ遠足にでかけたことや、フローティングスクールという小学校5年生を対象とした学習船での宿泊体験に障害をもつお子さんと一緒に船で宿泊したこともありました。

また、病院外の活動になりますが、びわこファミリーレスパイトというNPOで、障害をもつお子さんと家族のリフレッシュを目的に比叡山延暦寺での宿泊行事や新年会、運動会、クリスマス会などにボランティアスタッフとして参加していました。興味のある方はぜひFacebookでチェックしてください。

在宅と施設という違いはありますが、今までの経験を活かしながら子供たちに接していきたいと考えております。よろしくお願いいたします。



はじめよう!“転ばない”身体づくりと環境調整

理学療法士長 小松 勝幸

高齢者の転倒は様々な原因によって起こります。転倒による骨折で寝たきりになったり、転倒することが怖くて閉じこもりになったりすることは少なくありません。閉じこもっていると体力が低下し、外出がさらに億劫になります。

転倒を予防するためには、一つは“転ばない”身体を作ることです。今回は日本理学療法士協会が勧めている「はじめようバランス保持運動」と「はじめよう筋力強化運動」をご紹介します。毎日継続することはとても重要です。無理なく続けられるように運動しましょう。

もう一つの転倒予防は“転ばない”環境調整です。次の項目が当てはまらないようにご自宅の環境を整えてはいかがでしょうか。



- 1～2 cm ほどの敷居や段差はありませんか？
- 足元に物を置いていませんか？
- カーペットの端がめくれやすくなっていませんか？
- 夜間、足元は暗くないですか？
- 普段眼鏡をかけている方は、夜間トイレに行くとき眼鏡を忘れていませんか？

はじめようバランス保持運動

座布団の上で片足立ち

- ・かかとを10cm程度あげて10秒間保持することから始めましょう。
- ・テーブルを活用するなど、よるけても大丈夫な方法で行いましょう。



前後左右へのステップ

- ・立った状態から左足を大きく前へ一歩踏み出し、戻す(右足も行う)。
- ・左足を大きく外側へ一歩踏み出し、戻す(右足も行う)。
- ・それぞれ5回ずつ行いましょう。



四つ這いバランス

- ・四つ這いで左手・右足を同時に挙げて5秒保持し、もとに戻す。
- ・反対も行いましょう。(右手・左足の舉上)
- ・同時にできない人は、手だけ・足だけで行いましょう。



はじめよう筋力強化運動

立った状態でスクワット

- ・ゆっくりと両ひざを曲げ、ゆっくりとのばす。(曲げる角度はできる範囲で、10～20回から始めましょう)
- ・ひざに痛みがある場合は痛みのない範囲で行いましょう。



立った状態で太ももあげ

- ・ゆっくりと片方の太ももをあげ、ゆっくりとおろす(左右10～20回から始めましょう)。
- ・支持している方のかかとをあげてのびあがるように行ってみましょう。



立った状態がかかとのあげおろし

- ・ゆっくりとかかをとあげ、ゆっくりとおろす(10～20回から始めましょう)。
- ・ひざが曲がらないように気を付けましょう。



地域医療に力を傾けておられるみなさまをご紹介します

心のよりどころとなれるクリニックを目指します

浜口キッズクリニック

小児科

病児保育

院長 浜口 賢子 先生



子どもが好きで、子どもが元気になっていく姿をみることができる小児科医を志すようになったのは中学生の頃でした。奈良県立医科大学を卒業後、当時では非常に少なかったローテーション研修を受けることができる宇治徳洲会病院に入職し、小児救急・新生児集中治療（NICU）を中心に勤めましたが、私自身が子育てを経験する中で、その当時ほとんど知られていなかった病児保育というも

の出会い、助けられたことをきっかけに、地域の方に寄り添いながら貢献できる小児科医になりたいと思うようになりました。学生時代からの良きパートナーであった夫の支えもあり、医師としての第二の人生に踏み出してから、今年で14年目となります。開院して6年目に念願であった病児保育施設を、市の委託事業として開設することができ、微力ながらも働く地域のご家族のお役に立てているのではないかと自負しております。

最近子どもたちの病気だけでなく、育児・発達・教育について相談されることが多くなり、小児専門病院・産科勤務の経験や自身の子育ての経験が豊富なスタッフと一丸となり、医療を通していろいろな方の力になれるよう努めながら、お母様方の不安を少しでもやわらげ、心のよりどころとなれるよう心がけて診療しております。

南京都病院の先生方やスタッフの皆様には、専門外来をはじめとして、常日頃から大変お世話になっております。地域の皆様にご貢献できるよう、なお一層の努力をまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

■ 京都府京田辺市松井ヶ丘3-1-9
■ TEL 0774-68-1581
■ FAX 0774-68-1588

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前診 9:00~12:30	●	▲	●	●	●	●	/
午後診 13:30~18:00	●	/	●	●	●	/	/

■ 休診日 火曜日、土曜日の午後、日曜日、祝日



心に寄り添い、心に届く 訪問看護・訪問リハビリ

訪問看護ステーション Ohana

訪問看護

訪問リハビリ

訪問看護ステーション Ohana は、「住み慣れた家で暮らしたい」利用者様のそんな思いを叶えることをモットーに、令和2年1月、木津川市の山城町に町内初の訪問看護ステーションとして事業所を開業いたしました。

「Ohana」とはハワイ語で「家族」を意味する言葉です。血の繋がりこそなくとも、家族のような絆を作り、支える精神をもって、利用者様やご家族の心身に寄り添ってケアをしたいと考えております。

6月からは訪問リハビリも開始し、現在 Ohana では、3学会合同呼吸療法認定士の資格を持つ看護師を含め、看護師9名、理学療法士1名で、常に地域の開業医の先生や、介護支援専門員との連携を図りながら、24時間体制で、365日利用者様の生活をサポートしています。

また、ご家族が付き添えない時やご家族だけでは不安な時などの病院への付き添い、遠方への外出の同行など、介護保険・医療保険の対象にならない通院・リハビリ・外出などの日常生活の自費サービスも行っておりますので、どんなことでもご相談いただけます。

京都府南部地域や山城地域の方々のより所となれるステーションを目指して、今後も活動してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



■ 京都府木津川市山城町平尾茶屋町29-3
■ TEL 0774-66-4678
■ FAX 0774-66-4668
■ 営業日：月曜日～金曜日
■ 営業時間：8:30～17:50
■ 訪問エリア：木津川市・相楽郡全域
※訪問日は相談させていただきます



栄養管理室

栄養管理室長 右野 久司

栄養管理室は、管理栄養士3名、調理師1名、事務職1名の職員で構成されており、業務の中心は、給食管理と栄養管理に大別されます。

前者は、入院患者さんへ、治療に繋がる食事をおいしく且つ食べやすく安全に提供することを主眼とし、献立作成から食材購入、調理、配膳、食器洗浄までを行っています。その内の調理と配膳、食器洗浄に関しては業務委託となっており、病院職員と委託会社がワンチームとなって食事提供を行っています。

後者は、入院患者さんの栄養不良やその他諸問題を改善するため、栄養サポートチーム（NST）を始めとするチーム医療へ参画しているほか、入院及び外来患者さんの疾病に合わせた栄養食事指導によって、患者さんの食生活改善のサポートを行っています。糖尿病や高血圧、脂質異常症などの生活習慣病だけでなく、近年は誤嚥性肺炎や低栄養など、高齢化に伴う食事の問題も増えてきており、嚥下障害や栄養不良に対する食事指導のニーズも、今後ますます高まってくると思われます。

当院では、随時栄養や食事に関する相談を受け付けております。日頃の食生活でお困りのことや疑問に思われていることなどがございましたら、主治医にお申し出ください。管理栄養士がご相談に伺います。



月1回の特別メニュー食



週1回のNSTラウンド

療育指導室

主任児童指導員 藤井 鈴子

療育指導室は、全国の国立病院機構で重症心身障害病棟または、神経筋疾患病棟を有する病院に設置されており、重症心身障害や筋ジストロフィーやALS等の神経筋疾患の方々に関わる福祉職の部署です。入所時の相談から入所生活での全般的な困り事、在宅生活等におけるサポートについて、福祉・教育・心理・保育の専門性をもち関わっています。当院には、児童指導員5名、保育士9名が配置されており、利用者各々が年齢や状態に応じた豊かな生活を送ることができるよう「利用者中心」の姿勢で日々業務に励んでいます。

■療育指導室の主な役割■

- ・ 日中活動支援(療育・季節行事)の展開
- ・ 個別支援計画に基づく療育実践
- ・ 季節感のある活動の提供
- ・ 社会参加支援
- ・ 入所支援、短期入所支援、通所支援のコーディネイト
- ・ 利用者、ご家族、成年後見人への相談業務
- ・ 医療施設、福祉、教育など関係機関との連絡窓口
- ・ 補装具、日常生活用具に関する相談、手続きのサポート
- ・ ボランティア及び地域との交流作り



生活の困り事を始めとして、社会福祉の観点から福祉サービスに伴う相談をお受けいたします。お気軽にご相談ください。

『健康フェア』の開催中止について

令和2年10月3日（土）、「平和堂アル・プラザ城陽」にて開催予定としていました、【健康フェア】ですが、新型コロナウイルス感染者数が再増加しており、安全に開催することが困難と考え、中止させていただきます。



南京都病院長

交通のご案内



- 近鉄京都線 新田辺から 京阪宇治バス約15分
- JR 学研都市線 京田辺から
- JR 奈良線 山城青谷から 徒歩 20分

*... 各駅より
送迎車あり

診療科のご案内

- 内科
- 脳神経内科
- 呼吸器内科
- 消化器内科
- 循環器内科
- 小児科
- 外科
- 整形外科
- 呼吸器外科
- 皮膚科 (入院のみ)
- リハビリテーション科
- 放射線科
- 心療内科 (入院のみ)
- 歯科 (入院のみ)



独立行政法人国立病院機構

南京都病院

(当院は在宅療養あんしん病院に登録しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください)

〒610-0113 城陽市中芦原 11 番地
TEL.0774-52-0065 FAX.0774-55-2765
時間外緊急時 0774-52-0642
URL <https://minamikyoto.hosp.go.jp/>

地域医療 連携室

電話受付時間の延長について
平成 30 年 12 月 1 日から、申し込み受付を 19 時まで延長させていただきます。
電話受付時間

8:30 ~ 19:00 月~金 (土・日・祝日休み)
TEL: 0774-52-0191 (直通)
0774-52-0065 (代表)
FAX: 0774-58-0270

予約状況を確認し、その場で受診日時をお返事いたします。
なお、お時間を要する場合は折り返しお返事させていただきますので、ご了承ください。

E-mail: 407-renkei@mail.hosp.go.jp